

表装と帯封

話題の書——国語問題協議会すいせん

小汀利得 阿部吉雄 犬養道子 井上 靖 白井吉見 江藤 淳
 大岡昇平 宇野精一 大野 晋 海音寺潮五郎 北原武夫 堀田良平
 時枝誠記 亀井勝一郎 高橋義孝 中村光夫 木内信胤 中屋健一
 成瀬正勝 服部嘉香 福田恆存 舟橋聖一 細川隆元 村松 剛
 山本健吉 (順不同) の各先生をはじめ多数の方々。

石井 勲

黎明書房

新聞に、雑誌に、テレビに

一躍クローズアップされた 石井学級の記録！

漢字はカナよりもやさしい

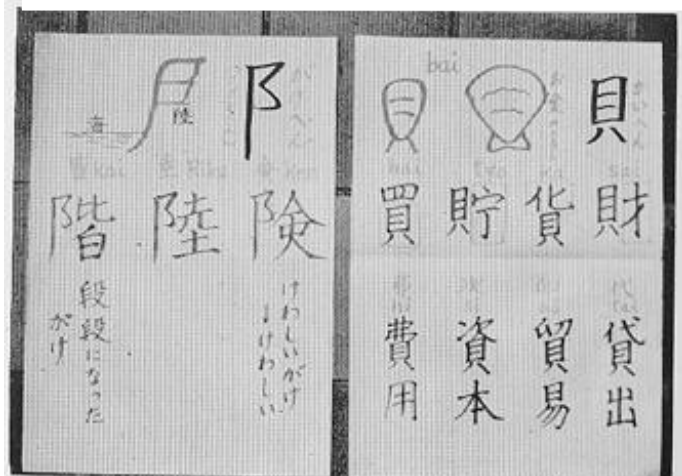
石井学級の一年生は六年生よりも漢字を沢山知っている！

高校の先生から、すすんで小学校一年の担任となった著者の
情熱が実証した貴重な成果！

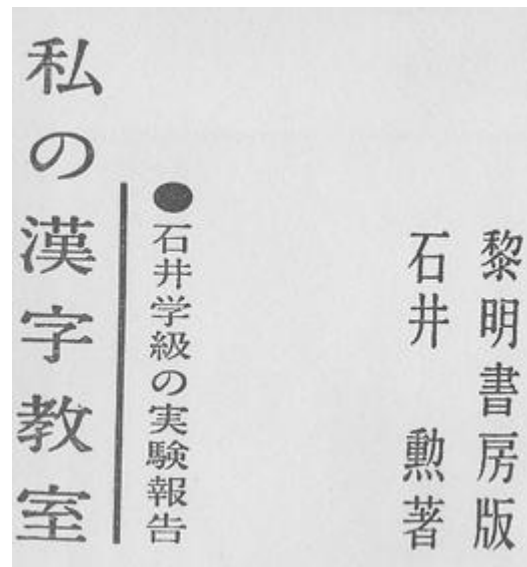
¥ 350



漢字を貼り付けた一年生の教科書



部首を正しく、深く理解することが漢字学習を能率的にする第一の方法です。



見開き



書き方をする一年生

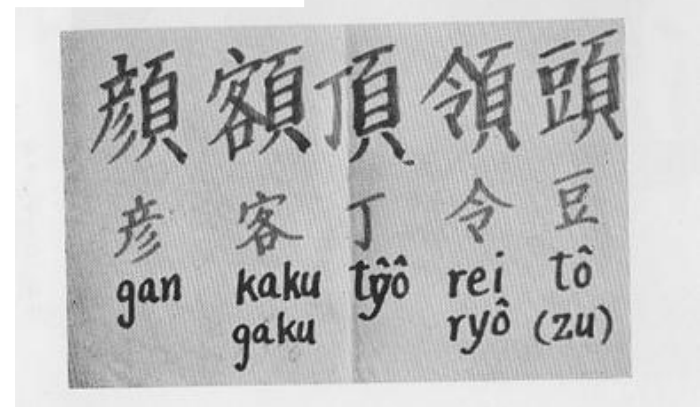


漢字指導中の著者

- 【上】
- 文と欠とを混同して書きやすいと言いますが、部首を正確に理解しないからです。
 - 文は、鞭や武器を手に持つ形で、強制や励ます意味を持ちますが、欠は、口を大きく開いた形です。
 - 吹は、口から息を吹き出す。飲は食べ物
を飲み込む。
 - 歌は、口を大きく開いて歌う、歡は、声を
あげて喜ぶ。



漢字は部首を理解させることが大切です。「自」は鼻で、これが基になって「首」「頁」「面」ができていくことを理解させます。下は、「頁」のある字を挙げました。額はおでこ、頂は頭のとっぺん、領はえりくびです。



序

昭和二十七年十一月十七日、朝日新聞の東京都下版のトップに、四段抜きで八段にわたり、私の研究について紹介がありました。

児童の言語生活を豊富に

「漢字教育」が必要 八王子教委石井主事 近く研究成果発表

という見出しで、『八王子市教育委員会の石井勲指導主事は過去二年間の研究結果から、現在の小学生は漢字の学習を非常に制限されているため、読書力や理解力が弱く、言語生活極めて貧弱になっている。(略)伸びようとする児童の読書力、理解力を故意に抑えて

いるようなもので、これをなくすためにはどうしても低学年のうちから漢字に親しませる必要がある。漢字の多くは事物を具象的に表現しているので、抽象的かなよりもかえって児童に親しみやすい利点があり、指導の方法さえ適切であれば、八百八十一字の教育漢字を三年生までに読ませることは決して困難ではない……』と紹介してくれました。

私はこの年、全日本国語教育協議会で、これについて発表しました。しかし、この発表も、この朝日新聞の折角の紹介も、何の反響も呼ばないで終りました。

新宿区立淀橋第一小学校長山下行人氏の並々ならぬ好意により、私の小学生指導が始まったのは、この翌年の四月一日です。以来、研究の結果を、全国漢学漢文教育研究会、全国大学漢文教育研究会、全日本国語教育協議会に発表して来ましたが、大した反響はなく、共鳴はしても実行してみようという人はまったくありませんでした。

ところが、本年三月、朝日新聞が、学芸欄で「漢字とカナ」問題を取り上げ、大岡昇平氏が三日にわたり、私のことを紹介するやにわかに私の研究に注目してくれるようになったことは大変嬉しいことでした。以来、今までに、私の所に、問い合わせの手紙、授業を見に来られる人、著作を贈って下さる人が連日のようになりました。新聞・雑誌・書物の原稿もずいぶん多く依頼を受けるようになりました。このように私の研究が世に注目を浴びるようになったことは嬉しいことであるとは言え、実行者が多く出ないことには、心から喜ぶわけには参りません。その意味で、三月、私の記事が朝日新聞に掲載されるや、いち早く本書の刊行を申し出てくれた黎明書房の力富阡蔵氏の厚意はほんとに有難いものだと思います。本書によって、全国のあちこちにきつと同志、協力者が出て、私に手をさし伸べて下さることと信じます。

書名の「私の漢字教室」は、福田恆存氏の「私の国語教室」にあやかかって命名したものです。昨年より、福田氏のお奨めがあって、ぼつぼつとまとめていきましたので、本書に、

名前を頂き、「私の国語教室」に劣らず、広く皆さんに読んで頂きたいという気持ちをこめました。

昭和三十六年六月十四日

石井 勲

後記

昨年から、ぼつぼつと整理はしていたのですが、三月末、黎明書房から話があり、にかにまとめることになりましたので、以来、文字通り寝食を忘れ寸暇を惜しんで筆を進めました。ガツコウの勤めは少しでも疎かにすることができませんので、ほんとにこの仕事は大変でした。六月十四日零時半、最後の称をやつと書き終え、続いて今これを書いていきます。ほんとに肩の重荷が下りた感じがします。時日のたりないため、研究に、至らない点も多いかと思いますが、今後十分に考えていきたいと思っています。本書は、私が、大東文化大学東洋研究所研究員としての研究物として発表するものです。

本書は、国語問題協議会で、推薦を決議してくださいました。ほんとにありがたいという気持ちで一ぱいです。

私の漢字教室

著者略歴

大正8年山梨県甲府市に生る。

山梨県立都留中学校卒業後、大東文化学院本科を経て高等科に学ぶ。昭和17年卒業。同時に軍役に服す。復員後、母校都留高等学校に勤務。

昭和25年八王子市立第四中学校に転ず。

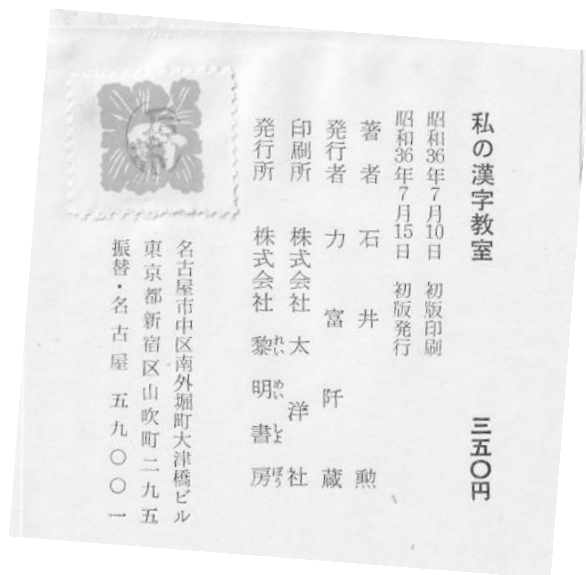
昭和26年八王子市教育委員会指導主事。

昭和28年新宿区立淀橋第一小学校に転ず。

昭和33年新宿区四谷第七小学校に転じ、現在五に至る。

その間、文部省教科書検定調査員、東京都教委国語研究員

現在 大東文化大学、東洋研究所研究員



表装・口絵・序・後記

最後に、福田恒存氏が、「私の国語教室」の後記で言われた言葉をそのまま使わせていた
だきたいと思います。

「最後に、私は本書に指摘した表記法改革の原理・実際、両面における矛盾について、
その当事者、および支持者の責任ある解答を求めます。どちらが正しいか、明らかに
まで論争する必要がありません。沈黙は敗退と認めます。そのために、新聞や雑誌がいづ
れの側にも公平に機会を与えてくれることを願ひします」と。(著者)